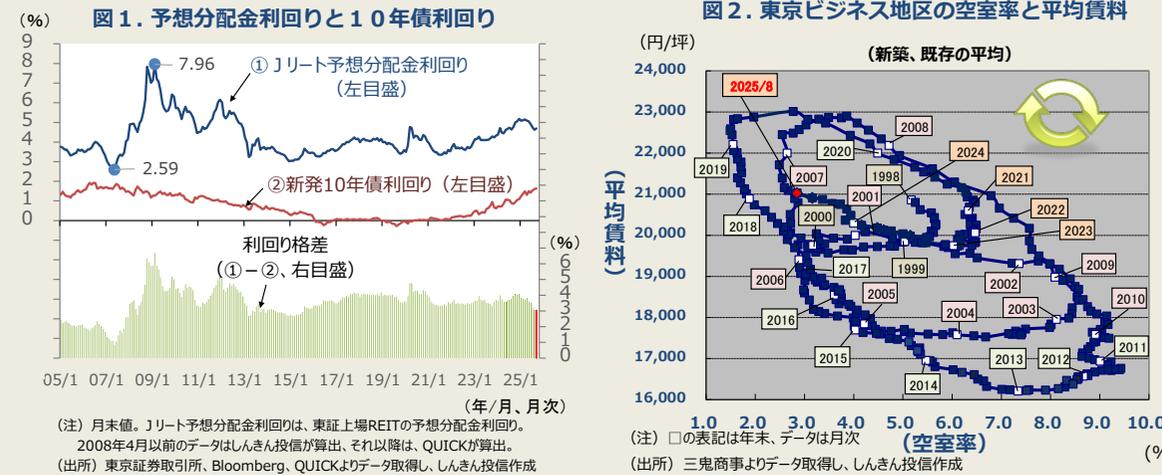


## Jリート市場の現状と見通し : 2025年10月

9月のJリート市場は、7月以降に急ピッチで上昇した反動や9月末の半期決算を控えた金融機関からと思われる売りなどが下押し圧力となったものの、東証REIT指数(配当なし)が1,900ポイントを下回る局面では、下値を拾う動きが見られたことなどから下値も限定的となり、底堅く推移しました。中旬に開催された日銀の金融政策決定会合では、日銀が保有するJリートの売却がサブプライムのに決定されたものの、年間50億円(簿価ベース)と非常に緩やかなペースで売却されることから、市場の反応は限定的でした。

10月のJリート市場は、日米中央銀行の金融政策や長期金利の動向、自民党新総裁が打ち出す経済政策などを確認しつつ、底堅い展開を想定しています。上旬に自民党総裁選が実施されますが、新総裁が打ち出す経済政策や連立政権樹立に向けた野党との連携の行方次第では、財政拡張懸念から長期金利が上昇する可能性があり、その場合はJリート市場の下押し圧力となります。また、日銀の追加利上げをめぐるスタンスも注意深く確認する必要があります。とはいえ、Jリート最大のセクターであるオフィスでは、東京都心のオフィス空室率が2%台後半まで低下し、さらなる賃料上昇が期待されるなど国内の不動産市況は良好です。また、値下がりした局面では下値を拾う買いや4%半ばの分配金利回りに着目した買いが見込まれることから、下値は限定的になると見込んでいます。

### Jリート関連指標



### ●主要指標 (2025年9月末時点)

時価総額	Jリート上場銘柄数	Jリート予想分配金利回り	新発10年債利回り		
16兆5,907億円	58	4.687%	1.645%		
(注) Jリート予想分配金利回りは、東証上場REITの予想分配金利回りで、QUICKが算出					
東証REIT指数	東証REIT指数 (用途別指数)			TOPIX	
	前月末比	オフィス 前月末比	住宅 前月末比		商業・物流等 前月末比
配当なし	1,921.07 +0.2%	1,908.67 -0.7%	3,088.61 +2.0%	2,306.11 +0.4%	配当なし 3,137.60 +2.0%
配当込み	5,076.28 +0.3%				配当込み 5,523.68 +3.0%

(出所) Bloomberg、QUICKよりデータ取得し、しんきん投信作成

### 前月の主なイベント

- ◆ 東証が発した8月の投資部門別売買状況では、事業法人は買い越し継続、海外投資家は買い越しに転換。個人は売り越し継続、銀行、投信は売り越しに転換
- ◆ 三鬼商事が発した8月の東京都心のオフィス空室率は、2.85%と0.31ポイント低下。賃料は2万1,027円/坪と、前月比0.57%(120円)上昇。上昇は19か月連続
- ◆ 12日: 日本ロジスティクスファンド、16日: コンフォリア・レジデンシャルが自己投資口の取得を発表

### 今月の主な決算発表予定の投資法人

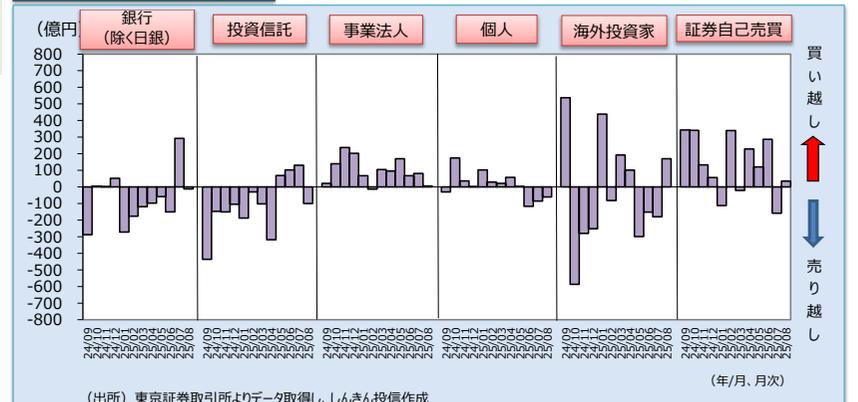
- 14日: GLP
- 16日: 三菱地所物流リート、野村不動産マスターファンド、サンケイリアルエステート
- 17日: 大和ハウスリート、福岡リート、ヒューリックリート、ザイマックスリート
- 20日: 日本都市ファンド
- 21日: オリックス不動産、ラサールロジポート
- 23日: 森トラストリート

### 東証REIT指数

【予想レンジ期間】(2025年10月~2026年9月)  
 【予想レンジ】東証REIT指数: 1,875~2,025



### 投資部門別売買状況



(2025.10.2)



＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

◆ご購入時の費用…購入時手数料 上限3.3%(税抜3.0%)

◆ご換金時の費用…信託財産留保額 上限0.3%

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

◆運用管理費用(信託報酬)…純資産総額に対して、上限年率1.628%(税抜年率1.48%)

◆その他の費用…監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様はファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。